

水戸市新たな市民会館管理運営基本計画策定等支援業務委託に係る 公募型プロポーザルの実施結果及び評価委員会講評について

1 はじめに

昭和 47 年 12 月に開館した水戸市民会館は、東日本大震災により施設が破損したことなどから、使用を停止しました。その後、市民会館の安全性の確保と早期再開に向けて、経済性・機能性・耐久性・災害時の安全性、新市民会館の整備によるまちの活性化等を総合的に検討した結果、泉町 1 丁目北地区に移転し、市街地再開発事業により整備することを決定しました。

平成 26 年度に、新市民会館の整備の基本理念や基本方針、施設の基本的な構成など、整備に当たっての基本的な考え方をまとめた「水戸市新たな市民会館整備基本計画」（以下「整備基本計画」という。）を策定し、その中で新市民会館整備の基本理念を「多様な人々の交流と多彩な文化が織りなす、ひと・まちが輝くステージ」と定め、基本理念を実現するための 3 つの基本方針として、「芸術文化と出会い創造する拠点」、「人が集い、躍動し、にぎわう交流拠点」、「人にやさしく、アートな景観、文化あふれるまちの拠点」を掲げました。

新市民会館は、舞台機構、音響設備、照明設備等、特殊設備を備えた施設であり、開館後の運営方針を見据えて特殊設備を検討する必要があることから、専門家の技術的助言を設計段階から取り入れ、施設設計と管理運営の整合性を図ることが重要です。また、新市民会館の大きな事業として、自主文化事業（主催・共催事業）や支援事業（貸館や技術サポート）、コンベンションの開催などを展開し、積極的にコンサートやコンベンションの誘致に向けた働きかけを行う必要があります。

そのため、今後、整備基本計画で定めた基本理念及び基本方針の実現や開館後の運営に向け、「水戸市新たな市民会館管理運営基本計画」の策定や、設計内容に対する助言等について、専門的視点からの技術的助言を参考としながら行っていく必要があります。

以上のことから、本業務の受注者選定は、契約金額だけではなく専門的知識や業務に対する姿勢等も含めて評価できる公募型プロポーザル方式により実施しました。

2 実施結果について

（1）評価委員会の設置

受注者の専門的知識や業務に対する姿勢等を評価するとともに公平性を確保するため、「水戸市新たな市民会館管理運営基本計画策定等支援業務受注者選定評価委員会」（以下「評価委員会」という。）を庁内に設置しました。

【評価委員会名簿（順不同）】

役職等	氏名
市長公室長	三宅 正人
財務部長	秋葉 宗志
市民協働部長	◎武田 秀
産業経済部長	飯村 健一
都市計画部長	村上 晴信
教育部長	中里 誠志郎
(公財) 水戸市芸術振興財団常務理事 (市民協働部参事)	大津 良夫

◎：委員長

(2) 評価の経過

ア 第1回評価委員会（平成27年4月21日）

「水戸市新たな市民会館管理運営基本計画策定等支援業務委託に係る公募型プロポーザル実施要領」（以下「実施要領」という。）の公告に向け、実施要領や仕様書の内容、評価基準等について協議しました。

イ 実施要領の公告（平成27年4月24日）

ウ 第2回評価委員会（平成27年5月22日）

プレゼンテーション及びヒアリングの進め方並びに評価方法について協議しました。

エ 第3回評価委員会（平成27年5月26日）

提案者から業務提案書の説明を受け、質疑を行いました。その後、提案者の評価を行い、当該提案者が基準点を上回ったため、最優秀者として選定しました。

(3) 評価の結果

最優秀者 株式会社シアターワークショップ
次点者 応募が1者であったため該当なし

3 評価委員会講評について

水戸市新たな市民会館管理運営基本計画策定等支援業務委託に係る公募型プロポーザルの評価委員会講評は、次のとおりです。

**水戸市新たな市民会館管理運営基本計画策定等
支援業務委託に係る公募型プロポーザル評価委員会講評**

水戸市新たな市民会館管理運営基本計画
策定等支援業務受注者選定評価委員会
委員長 武田 秀

(1) 最優秀者 株式会社シアターワークショップ

初めに、株式会社シアターワークショップから4つの特定テーマに対してなされた主な提案を抜粋します。

【特定テーマ1】「市内外から広く人が集う交流や文化の活動」に関する提案

- ・芸術愛好家だけではなく、多くの市民がいつでも集まる施設を目指す。
- ・そのために、行きたいと思っただく空間と活動を提供する。
- ・「みたい、聴きたい、行ってみたい。」と思わせるようなコンサートやミュージカルを定期的に上演し、観客に感動や興奮を与えることで底辺が拡大する。
- ・新市民会館で実演芸術を楽しむことが習慣化し、来館者が増加することで、「市民のひろば」として常に人が集まり新たな活動が芽生える場所となる。
- ・良質で集客力の高い自主事業を継続的に行うことにより、知名度が上がり、上演団体やプロモーターによる貸館事業の促進につながる。
- ・オリジナル作品の創造を通じて水戸発の作品や市民上演団体を県外に向けて発信するとともに、創造活動の参加者の日常的活動から新市民会館のにぎわいが創出される。
- ・コンベンションの誘致のために、早期予約制度など申込しやすい規則づくりを行う。
- ・宿泊、飲食、観光、交通などの様々な準備をワンストップで行えるようコンシェルジュ機能を設ける。

【特定テーマ2】「歴史的資源や商業施設、文化施設等との回遊性を生かした活力あるまちづくり」に関する提案

- ・展示やパフォーマンスが可能なスペースを各所に設け、エリア全体を芸術文化発信の場とする。
- ・随時まちなかでのイベントを開催することで、一体性と回遊性を生み出す。
- ・館内にインフォメーション機能を充実させ、周辺店舗や市内観光名所の案内を行う。
- ・アフターコンベンション用の体験型プランを多数用意し、滞在型のまちづくりを推進する。
- ・民俗芸能、まつりなどの伝統行事、水戸芸術館や新市民会館の文化芸術活動を記録し、これを閲覧可能とすることにより市の歴史的資源や文化芸術活動への関心を喚起する。

【特定テーマ3】「水戸芸術館との連携を図り、本市の芸術・文化の中心となるような多角的な運営」に関する提案

- ・水戸芸術館の音楽・演劇・美術事業を生かした、オペラ・ミュージカルをはじめとする総合舞台芸術作品などを、新市民会館の施設規模を生かせる自主事業として開催する。

- ・水戸芸術館広場でのイベントの雨天対策や第2会場として連携を図る。
- ・新市民会館の運営体制として、水戸市芸術振興財団の組織拡大により水戸芸術館と新市民会館を一体運営する案やポップスやコンベンション誘致に強く貸館スキルを有する団体を指定管理者とし、芸術文化事業については水戸市芸術振興財団に委ねる案を検討する。
- ・芸術文化による社会包摂（社会に対する参加の保障、例えば、障害者とアーティストが協働し、美術や身体表現を行う等の取り組み）のあり方を追求し、様々な困難や障害を持った方が孤立しないよう、市民どうしのコミュニケーションを活発にするために芸術・文化を活用する。
- ・芸術文化が市民の誰にでも必要なものとして位置付けられることを目指す。

【特定テーマ4】「その他提案者が重要と考える事項」に関する提案

- ・幅広い層からの意見聴取やイベントの実施により、開館前から新市民会館への期待と関心を喚起し、将来の利用者、来場者、運営サポーターづくりにつなげる。
- ・文化芸術関係の幅広いネットワークを活用し、講師など専門家の紹介が可能である。
- ・他団体での成功事例では、早期から市長自らが関心を持ち検討過程を把握してきたケースが挙げられ、本計画においても、市長及び市幹部に、目指すべき方向性を共有するための報告会の実施を年数回行う。

評価委員会ではこれらの提案に対し、ヒアリングを行いました。主な質疑の内容は次のとおりです。

質問	考え方
使いやすい施設への考え方は？	施設だけで100点は難しく、それを補うのが運営。使用に当たってのルールやスタッフの対応が重要
施設稼働率や満席率を上げるための方策は？	クラシック中心からポップス系の音楽にシフトしており、全国ツアーのなかの1施設として取り入れてもらうなど、プロモーターとのタイアップが重要
設計内容に対する確認において重要な点は？	設計の進捗に合わせてタイムリーに情報を共有し固めていくことが必要
再開発ビルにおける商業施設への回遊性の課題は？	劇場運営における視点は一斉退場の際に人の流れを止めずに円滑に誘導する必要があるのに対し、商業施設の店舗ではその流れを止めたいなど相反するニーズがある。
文化施設の運営主体として持つべき理念は？	文化施設のあり方が大きく変わってきており、文化芸術のためだけでなく、社会包摂のような大きな目的のためにあるという理念を理解すべき。芸術面だけでなく経営面も重要
若い人を集める視点は？	市民ワークショップのような手法でサポーターとして、一緒に一喜一憂しながら施設を盛り立てていくようなコアなスタッフを作り出したい。
「みたい、聴きたい、行ってみたい。」催事の	話題性があるもの、観客ニーズの把握が重要。また、広報宣伝活動やチケット販売に協力してもらえるようなプロモータ

具体例は？	一の活用も必要
学校参加によるコンクールやフェスティバルの運営課題は？	バスの待機場や、児童生徒が出演者であり観客でもあるという特殊性から施設内の巡回ルート確保が必要
コンベンションにおけるコンシェルジュ機能の成功事例は？	なかなかない。継続的営業が大切である。
指定管理者としての経験は？	ある。コンサルタントの中で運営に携わっているのはまれであり、運営から得られる情報がコンサルタント業務にフィードバックされている。
中心市街地活性化のための施設として必要なことは？	特別な時に行こうと思う施設よりも時間が空いたら行こうと思ってもらえるような居場所づくり（サードプレイス）が大切。そこに行ったら何かあるという期待が持てる施設とすべき。

これらのヒアリングを通じ、提案書の内容については、網羅的で水戸の特性についての視点があまり感じられないといった評価も一部には見られましたが、質疑への応答は真摯で、豊富な経験に基づいた確かな考え方が示され、評価委員会としては、受注者として適切であるとの結論に至りました。

なお、評価委員からは、サードプレイス（居場所づくり）という考え方は非常に大切であり、管理運営基本計画の項目としてぜひ入れるべきとの意見、施設の計画業務はゾーニングが大事であり、これを丁寧に考えてほしいとの意見、計画策定にとどまらず仮に自らが指定管理者となった場合でも実現できるような計画を想定して業務に臨んでほしいなどの意見も示されました。

これらの意見に対しても業務遂行に当たっては、十分に尊重されるよう申し添えます。

【評価得点表】

評価項目		(株)シアターワーク ショップ
(1) 業務理解度		56
(2) 業務実施体制		102
(3) 提案内容 (総合)		106
(4) 提案内容 (個別)	特定テーマ1 「市内外から広く人が集う交流や文化の活動」に関する提案	53
	特定テーマ2 「歴史的資源や商業施設、文化施設等との回遊性を生かした活力あるまちづくり」に関する提案	44
	特定テーマ3 「水戸芸術館との連携を図り、本市の芸術・文化の中心となるような多角的な運営」に関する提案	44
	特定テーマ4 「その他提案者が重要と考える事項」に関する提案	49
(5) 価格点		70
合 計 (700 点満点)		524